

COVID-19 患者と関わる看護師のメンタルヘルス—諸外国との比較による考察—

The mental health for nurses involved in Covid-19 patients -Discussion with other countries situation-

○大植 崇, 藤後栄一, 大植由佳, 三徳和子

Takashi Ohue., Eiichi Togo., Yuka Ohue., Kazuko Mitoku.

兵庫大学看護学部看護学科

Department of Nursing, Faculty of Nursing, Hyogo University, JAPAN

【背景と目的】

本研究の目的は、A県のCOVID-19患者に関わる看護師を対象に、メンタルヘルス(PTSD・うつ・不安障害・バーンアウト)において、Jianbo Lai et al (2020)の中国とSarbooz et al (2020)のイランと比較検討することを目的とした。

【方法】

研究対象者は、A県でCOVID-19患者の対応にあたっている部署で勤務する看護師を対象とした。

調査期間は2020年8月4日～10月26日であった。41病院の看護部長宛に説明文を郵送し、同意の得られた5病院を対象とした。アンケートを120部郵送し、56人(男性7名、女性49名)から回収した(回収率46.6%)。

調査内容は、基本属性(性別、年齢、経験年数等)、風評被害の知覚の有無、調査時期、抑うつ: Patient Health Questionnaire-9 (PHQ-9 日本語版)、不安障害: Generalized Anxiety Disorder-7 (GAD-7 日本語版)、トラウマ体験: Impact of Event Scale-Revised (IES-R 改訂出来事インパクト尺度日本語版)、バーンアウトの測定: Maslach Burnout Inventory-General Survey (MBI-GS)、離職の意思(看護師を辞めたい、病院・部署を変えたい、看護師を続けたい)とした。

倫理的配慮: 研究対象者には、倫理的配慮に関する内容を説明し自由意思による同意を得た。なお、兵庫大学研究倫理委員会の審査を受けた(No. 2004)。

【結果】

対象者の個人属性は、性別では男性7人(12.5%)、女性49人(87.5%)であった。年齢では、20-29歳25人(44.6%)、30-39歳15人(26.8%)が多かった。経験年数は、1年～5年18人(32.1%)、6年～10年14人(25.0%)が多かった。IES-R、PHQ-9、GAD-7、の各尺度を正常、軽度、中程度、重度に分類をした。その結果、IES-Rの正常は19人(33.9%)、軽度23人(41.1%)、中程度9人(16.1%)、重度5人(8.9%)であった。PTSDのハイリスク群とされる、中程度から重度は、14人(25.0%)であった。また、PHQ-9では、正常は30人(53.6%)、軽度15人(26.8%)、中程度7人(12.5%)、重度4人(7.2%)であった。うつ病(大うつ病性障害)水準とされる中程度から重度は、11人(19.7%)であった。また、不安障害では正常は30人(53.6%)、軽度14人(25.0%)、中程度8人(14.3%)、重度4人(7.1%)であった。薬物療法が必要とされる中程度から重度は、12人(21.4%)であった。また、MBI-GSの分類を参考に、「高い」「普通」「低い」の3群に分類を行った。その結果、バーンアウトにおいては、「疲弊感」「低い」

20人(35.7%)「普通」15人(26.8%)「高い」21人(37.5%)、「シニシズム」「低い」20人(35.7%)「普通」18人(32.1%)「高い」18人(32.1%)、「職務効力感の低下」「低い」33人(58.9%)「普通」14人(25.0%)「高い」9人(16.1%)であった。約30%以上が、高いバーンアウト状態であった。

【考察】

Jianbo Lai et al (2020)の中国におけるPTSDは正常22.5%、軽度38.2%、中程度24.6%、重度11.6%であり中国に比べると日本の看護師のメンタルヘルス不調は低かった。また、Jianbo Lai et al (2020)の抑うつでは、正常は46.5%、軽度38.1%、中程度8.4%、重度7.1%であり、中国に比べて、本調査の方が、中程度の分類が多く、重度は同程度であった。また、Jianbo Lai et al (2020)の不安障害では、正常は52.9%、軽度34.4%、中程度7.1%、重度5.6%であった。中国に比べると日本の看護師のメンタルヘルス不調はやや高い傾向にあった。つまり、中国に比べると日本の看護師のメンタルヘルス不調は高かった。

次に、バーンアウトでは、「疲弊感」37.5%、「シニシズム」32.1%、「職務効力感の低下」58.9%が高いバーンアウトであった。イランのデータである、Sarbooz et al (2020)は、看護師の40%以上がバーンアウトであると報告し、イランに比べると日本の看護師のメンタルヘルス不調は同程度であった。COVID-19患者に最前線対応する中で、見通しが見えない現状が、バーンアウトを高めている可能性が考えられる。以上より、我が国のCOVID-19患者に関わる看護師は、諸外国と比べ、PTSDは低いが抑うつと不安は高い傾向が見られた。心理的サポートの不足が影響していると考えられる。

【利益相反】

本研究における利益相反はない。本研究は、一般社団法人日本私立看護系大学協会 2020年度研究助成事業「若手研究者研究助成」の助成を得たものである。

【引用文献】

Jianbo Lai,; Simeng Ma, Ying Wang, et al (2020) Factors Associated With Mental Health Outcomes Among Health Care Workers Exposed to Coronavirus Disease 2019, JAMA Netw Open, doi: 10.1001/jamanetworkopen.2020.3976
Sarbooz Hoseinabadi, T., Kakhki, S., Teimori, G., & Nayyeri, S. (2020). Burnout and its influencing factors between frontline nurses and nurses from other wards during the outbreak of Coronavirus Disease -COVID-19- in Iran. *Investigación Y Educación En Enfermería*, 38(2).